

令和4年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	5 4	学校名	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校					課程	全日制		学校長名			太田垣 淳一			
教頭名	大西 武彦										事務（室）長名			野口 範正			
教職員数	教諭	4 1	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	3	実習教諭，実習講師，実習助手		1	事務職員	6	技術職員等	5	計	6 2
生徒数	小学科		1 年			2 年		3 年					合計		合 計		
			男	女	男	女	男	女			男	女	クラス数				
	普通科		1 4 5	9 5	1 3 5	1 0 4	1 2 6	1 0 8					4 0 6	3 0 7	1 8		

2 目指す学校像

10年先を透徹した生徒主体の探究学習

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	【高潔】 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する 【誠実】 まっすぐ学びに向き合う，誠実で理知的な学びの場となる 【剛健】 質・量ともに高い結果を目指し，あくなき挑戦を続ける 【協和】 異文化に胸襟を開き，受容的で持続可能な社会の範となる
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	【生徒】21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る ICTを活用したアクティブ・ラーニング（自己調整学習）を推進する 多様な学びを促進する学習環境を提供する 生徒が主体性を発揮できる自由を創出する 【学校・教職員】名実一致した合理的で生産的な教育機関となる 学校の向かう方向性を一にする カリキュラム・マネジメントの機能を構築する 組織の生産性を高める（働き方改革） ゆるぎなき教科教育の質を達成する エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う 【地域社会】地域と連携し共に成長する，開かれた学校となる 竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす

入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○高等学校全日制課程 本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移してきた人材 ○附属中学校 本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、中学校において学びを深めるために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材。その上で、社会や自然に興味関心を持ち、それを行動や表現に移すことのできる人材
---	--

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
全体	・ 県南の伝統校として存在感を維持する（志望倍率は附中 3.7 倍，高校 1.3 倍）一方，時代の変化・少子化・公立離れに対する内部の危機意識は必ずしも高くない ・ 単位制移行と内進生の高校進学を R5 に控える中，本質的な中高一貫教育の実現と特色化が求められる ・ 「学年王国」主体の運営でガバナンスが未成熟である	・ 6 ヶ年一貫教育の実現 ・ 教育課程の差別化・特色化 ・ 学習指導・進路指導の質向上 ・ マーケティング強化、生徒募集の戦略化、特色選抜見直し ・ 経営／カリキュラム・マネジメントにもとづく運営の維持 ・ 組織の透明化と多様性の向上 ・ 変革に意欲的な人材の積極登用
学習指導	・ 高入生の多くが基本的学習習慣を身に付けていない（高 1 の 72% が家庭学習不足） ・ 裏づけある教科指導力にもとづく基礎学力の定着に上昇余地が大きい（R4 卒業生の平均点偏差値 56） ・ 外発的動機や演習量に依存した伝統的指導から，思考力や表現力を育む深い学びへの質的転換が十分に進んでいない（R4 共通テストの 5 教科 7 科目偏差値 48） ・ ICT の活用は県内有数の水準である ・ 探究活動は「SS（理系特進）クラス」において体系化されているが，それ以外では学年に委ねられている ・ 毎年二桁の筑波大学合格者を輩出するが，最難関大学については，散発 1 ～ 2 名の合格にとどまっている	・ 6 年一貫した学習指導の体制を構築する ・ 「R プログラム」（共通の学習指導計画）を刷新する ・ 教科ごとの職能集団の形成を促進する ・ 目標管理や評価・研修等を含めた人財開発のあり方を見直す ・ SS 以外のクラスに対する探究学習の体系化と質向上を行う（教材の提示を超えた「深い ICT 活用」についても，上の文脈の中で引き続き追求する）

進路指導 キャリア 教育	・ LHR 等を通じ進路研究等を行っている（R3 実績 8 回） ・ 高3 初夏まで部活動を継続する生徒がほとんどである ・ 教員による筑波大学の入試研究が慣習化しているほか、小論文・面接指導に全校態勢であたっている ・ 入試動向や出願戦術の面で外部の支援を借りている ・ 生徒については、自己効力感の低さが見られるほか、大学入試後に向けた時代認識やキャリア展望を十分に持たず、安易な進路選択をする姿勢が散見される	・ 社会人教員の登用など開かれた学校づくりの積極推進 ・ 海外進学や起業といった多様な進路への対応 ・ 出口戦術に係る客観的なノウハウの蓄積
生徒指導	・ いじめ（0 件）など生徒の問題行動は僅かである ・ 生徒のストレスが増している（SC 利用のべ 108 回） ・ 問題発生時の報告が疎かになる傾向がある ・ 学校のルール作り等への生徒の関与拡大に消極的な教員が多い。生徒（会）も自治意識は高くない	・ SC の増員要請；保護者に対する自助・互助の要請 ・ 公共・探究などを通じた主権者教育の強化・質向上と生徒（会）のエンパワメント ・ 危機管理手順（即時報告）の徹底
特別活動 （部活動 は含まない）	・ 伝統的に部活動が盛ん（参加率 高 83%/中 98%；平日活動日数 高 5 日/中 4 日）で意欲的な教員が多い（6 運動部において特色選抜を実施）。部活動で得た資質や姿勢を教室内で活かすところに改善余地がある。 ・ 学校行事については、白龍祭（文化祭）のように生徒の自己実現の場となっているものがある一方、教育効果の検証が必要なものもある（「文化芸術鑑賞」） ・ e スポーツなど新興のニーズが高まりつつある	・ 部活動運営方針にもとづいた生徒主体の部活動を徹底する ・ キャリア・パスポートを活用し成長の履歴を取る（総合型入試等につなげる） ・ 教育効果に鑑みた行事の「選択と集中」を行う ・ 新たなニーズに応えた持続可能な部活動の形を開発する
働き方改 革	・ 改革校としての業務負荷に、コロナ対応や入学者選抜改革が重なり、超過勤務（月 80 時間以上に達した者が 3 名）だけでなく療休や離職に至る教員が現れた ・ 本年度は R5 の単位制移行に向けた準備が佳境となるにもかかわらず教員定数は前年度比 3 減となる	・ さらなるデジタル化と断捨離の実施 ・ 教員加配、異動公募制の適用、業績評価の正準化、部活動支援員の追加配備、労働衛生の強化など実効的な改善・支援を教委に要求する

5 中期的目標と本年度の重点目標

中期的目標（太字）と重点目標（本年度のものに○）	評価指標	担当
【生徒】21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る		
ICTを活用したアクティブ・ラーニング（自己調整学習）を推進する	ICTを使用した授業の割合	教務*
多様な学びを促進する学習環境を提供する	施設利用者数	情メ
○ 生徒が主体性を発揮できる自由を創出する	ルールづくりへの生徒の関与	特活，生指
○ グローバル教育を全校での取り組みに昇華させる	英検合格者数（KPI）	グロ，英語科
キャリア教育の再生を通じ，生徒の学ぶ動機を強化する		生指
○ 地域特性を活かし差別化された学びを提供する	IT 資格（KPI）	教務*，情報科
【学校・教職員】名実一致した合理的で生産的な教育機関となる		
学校の向かう方向性を一にする		改革
カリキュラム・マネジメントの機能を構築する		教務*，DX
○ 組織の生産性を高める（働き方改革）	残業 80 時間を超える教職員 0	管理職，全教職員
○ ゆるぎなき教科教育の質を達成する	生徒の資質・能力の向上 新「R プログラム」の完成	教科，教務*
カリキュラム・ポリシーにもとづく 6 年間一貫した学びを提供する		教科
○ エビデンス・ベースの筋肉質な出口指導を行う	進学実績（KPI 参照）	進路
アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を行う	特色選抜の内容更新	管理職，学検委
○ 安心・安全の学校環境を維持する	生徒の事故 0，教員の不祥事 0，事務上のミス 0	保健，生指，事務
【地域社会】地域と連携し共に成長する，開かれた学校となる		
○ 地域人材を活用した，開かれた教育を推進する	地域課題解決型探究プログラムの完成	探究
○ 竜一の価値を効果的に伝え支援者を増やす	HP アクセス数	マケ
地域に支えられた持続可能な部活動に転換する		特活

注）教務＊：（教務部，進路指導部，探究部内で教務的な業務を担っている者）